

## 平成 29 年度 第 1 回コンクリート常任委員会議事録（案）

日 時：2017 年 5 月 25 日（月）14 時～17 時 15 分

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター カンファレンスルーム 7C

出席者：前川委員長，小林幹事長，石田，氏家，梅原，大内，河野，坂井，下村，田中，土谷，津吉，二羽（代理：中村），濱田，久田，松田，丸屋，睦好，森，山路，渡辺の各常任委員，綾野，加藤，坂田，名倉の各委員兼幹事，春日委員，長井氏

配付資料：

- 1-0 平成 29 年度 第 1 回 コンクリート常任委員会 議事次第
- 1-1 土木学会 コンクリート委員会 委員構成
- 1-2 平成 28 年度 第 6 回 コンクリート常任委員会 議事録
- 1-3 平成 29 年度 コンクリート委員会・常任委員会 開催予定
- 1-4 示方書 審議スケジュール
- 1-5 示方書改訂小委員会 設計編部会 委員構成
- 1-6 同 施工編部会 委員構成
- 1-7 国際関連小委員会 委員構成
- 1-8 石炭灰混合材料の設計施工および環境安全性評価に関する研究小委員会 委員構成
- 1-9 混和材を大量に使用したコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会 委員構成
- 1-10 規準関連小委員会の活動状況の報告
- 1-11 平成 28 年度 コンクリート委員会 一般会計予算執行状況
- 1-12 平成 28 年度 調査研究小委員会の活動度評価の結果 および 平成 29 年度 調査研究費予算配分について（ご報告）
- 1-13 コンクリート構造物の養生効果の定量的評価と各種養生技術に関する研究小委員会 委員構成
- 1-14 Report on H28 Joint seminar held in Makassar, Indonesia
- 1-15 コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメント研究小委員会 成果報告会＜東京会場＞
- 1-16 コンクリートにおける水の挙動研究小委員会（JSCE349）報告会 および シンポジウムの御案内
- 1-17 コンクリート構造物の設計と連成型性能評価法に関する研究小委員会（第 1 期）成果報告会
- 1-18 コンクリートライブラリー148 号「コンクリート構造物の品質を確保した生産性向上に関する提案」各地区での講習会開催状況

議 事：

### 1. 委員長挨拶

前川委員長より，平成 29&30 年度常任委員会の発足にあたっての挨拶があった。主な内容は以下の通り。

- ・ 2 年の任期期間中，皆様のご協力をお願いします。2 年後にスタートする次期を見据えた活動が望まれる。
- ・ 過去の基規準に目を通す機会があったが，それらの内容が現在の示方書に繋がってきている。示方書は社会的な影響が大きい。示方書を制定する立場として，過去の遺産を受け継ぐ責任の重さがある。一方，過去の基規準について，現状で問題無いからそのまま良いという訳ではなく，思い切った更新も必要で，将来に向けた検討を継続的に行ってゆく必要がある。
- ・ 就業人口が減るという大問題があり，それに対処する動きが急速に出てきた。将来への備えは産官学が一体となった活動が必要。コンクリート委員会には法規上，発注上等の権限はないが，後方支援を行う必要がある。

- ・ コンクリート委員会のメンバーは、いろいろな取り纏めをする立場にあるはず。土木学会全体、あるいはそれ以外の各機会でも、そういった活動をして欲しい。

## 2. 幹事および委員の自己紹介

出席の幹事および委員の簡単な自己紹介をした。

## 3. 平成 28 年度 第 6 回コンクリート常任委員会議事録の紹介

綾野幹事より資料 1-2 にしたがって内容の紹介があった。

なお、議事録中の報告事項 4 で紹介した土木学会重点研究課題へのコンクリート委員会からの応募は、残念ながら採択に至らなかった、という補足の説明があった。

## 4. 平成 29 年度コンクリート常任委員会開催日程

小林幹事長から、常任委員会とコンクリート委員会の開催予定について紹介された（資料 1-3）。

- ・ 示方書の審議・出版スケジュールの関係で、第 4～6 回の開催が通常より 1 ヶ月繰り上げられている。
- ・ 議事次第（資料 1-0）に記載の次回会場は間違いで、本資料（資料 1-3）に記載の「ホテル仙台ガーデンパレス」が正しい。

## 5. 示方書審議のスケジュール

示方書改訂小委員会の下村幹事長から、示方書の改訂作業のスケジュールについて、常任委員会での審議スケジュールも含めて紹介された（資料 1-4）。

### **審議事項：**

#### 1. 第 1・2 種委員会の委員構成

前川委員長から以下の委員交代等についての説明があり、いずれも異議なく承認された。

##### (1) 示方書改訂小委員会（101）設計編部会（資料 1-5）

交代：進藤良則（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）→西恭彦（同）

新任：担当幹事として、名倉健二（清水建設）、加藤佳孝（東京理科大）

##### (2) 示方書改訂小委員会（101）施工編部会（資料 1-6）

新任：担当幹事として、坂田昇（鹿島建設）

##### (3) 国際関連小委員会（207）（資料 1-7）

交代：西田孝弘（京都大学）→山田雄太（日本大学）

新任：担当幹事として、加藤佳孝（東京理科大）

役割変更：石田哲也（担当幹事から委員に）

##### (4) 石炭灰混合材料の利用拡大に向けた設計施工指針小委員会（261）（資料 1-8）

交代：松野隆（九州電力）→春口雅寛（同）

新任：川端淳一（鹿島建設）、猿橋淳子（資源エネルギー庁）

担当幹事として、坂田昇（鹿島建設）

##### (5) 混和材を大量に使用したコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会（264）（資料 1-9）

退任：室野井敏之（鹿島建設）

新任：林俊斉（安藤・間）

## 2. 規準関連小委員会（102）の任期延長

前川委員長，久田小委員会委員長から，提案についての説明がなされた（資料 1-10）。

- ・ 現委員の任期は 2 年で，委員委嘱は昨年度までだったが，今年度中に示方書〔規準編〕の改訂作業を終えて改訂版を発刊する予定なので，現メンバーでもう 1 年活動したい。

以上の提案について，異議なく承認された。同時に，以下の委員交代の提案についても承認された。

交替：内田美生（全国生コンクリート工業組合連合会）→辻本一志（同）

## 3. その他

示方書の電子化の進捗状況について，規準関連小委員会の久田委員長から質問があった。

- ・ 示方書〔規準編〕では，規準名をクリックすると当該規準にジャンプできる，などの機能を付与した電子化をイメージしているが，示方書の他の編の電子化については，現状ではどのような予定か？

→初版は紙ベースで出版し，第 2 版で電子化することを目指している。電子化作業のためのフォーマットは，作業が進んだ段階で規準編に提供出来ると思う。

→示方書は売り上げが大きく，学会の財政を支えているため，電子化した場合の影響が大きい。

したがって，出版担当の斉藤幹事を通じて本部と連携しながら，慎重に検討を進めている。

→電子化のメリットが一番大きいのは規準編ではないか？

- ・ JIS 引用部の電子化のハードルが高い。

→JIS への対応については，規準編で考えて欲しい。

→非鉄スラグ骨材コンクリートの指針を出版したときに，関連する JIS の指針への掲載について日本規格協会に相談したときの感触は，決して悪くなかった。

## **報告事項：**

### 1. 平成 28 年度コンクリート委員会決算報告

小林幹事長から平成 28 年度のコンクリート委員会の決算について報告された（資料 1-11）。

- ・ 「セメント系材料を用いたコンクリート構造物の補修補強研究小委員会（263）」が委託委員会であるにもかかわらず，記載が無い。  
→本部との契約が未だ終わっていないためである。

### 2. 平成28年度調査研究委員会の活動度評価の結果

小林幹事長から，平成 28 年度のコンクリート委員会に対する活動度評価の結果が A であったこと，および，その結果に基づいて算出された平成 29 年度の調査研究費配分額が報告された（資料 1-12）。

### 3. 第 3 種委員会の委員構成

- (1) コンクリート構造物の養生効果の定量的評価と各種養生技術に関する研究小委員会（356委員会）  
綾野幹事から，公募を経て確定した 356 委員会の委員構成について報告された（資料 1-13）。

### 4. 国際関連小委員会ジョイントセミナー報告【濱田】

国際関連小委員会の濱田委員長より，2017年3月17日にMakassar（Sulawesi島，インドネシア）で開催されたセミナーの報告があった（資料 1-14）。

また，今年度も「学術交流基金助成金」の交付申請が採択され，それを用いて6月9日にウランバートル（モンゴル）でセミナーを開催する。国際関連小委員会の大島氏，Henry氏が講師を務める。

- ・ 日本特有の事情として，建築と土木の設計体系が分かれていることが挙げられるが，どう対応

しているのか？

→ビルの耐震設計について聞かれることがある。事前に対象範囲をアナウンスしておくべきだろう。

→一方、実質的な設計のフレームは、土木学会、建築、鉄道、港湾等で、ほぼ統一されてきているように思える。お互いに横にらみで改訂を進めてきたため。

→JCI で検討した結果、材料分野については、用語等の違いはあるものの、土木と建築でほぼ共通しているが、やはり耐震は違うように思えた。寸法が違う影響が考えられる。

→鉄道は鉄道構造物と駅舎を同時に取り扱う必要があるため、土木と建築の統一ができたようだ。

## 5. 報告会・講習会の開催報告および予定

### (1) コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメント研究小委員会 (229)・コンクリート構造物の品質確保小委員会 (350) 成果報告会

石田委員より表記報告会が7月28日にエッサム神田ホールで開催されることが報告された(資料1-15)。なお、元々活動していた350委員会が重点研究課題に応募し、採択された結果発足したのが229委員会であり、両委員会の活動内容は大幅に重複しているため、本報告会の開催と技術シリーズの発刊は、350委員会の成果としても見なす事となった。また、350委員会は今年度から2期目として活動する予定であり、改めて活動計画を提案したいとの説明があった。

### (2) コンクリートにおける水の挙動研究小委員会 (349) 成果報告会

綾野幹事から表記報告会が6月1日に中央大学で開催されることが報告された。

### (3) コンクリート構造物の設計と連成型性能評価法に関する研究小委員会 (351) 成果報告

綾野幹事から表記報告会が6月30日に土木学会で開催されることが報告された。

→前川委員長より、第3種委員会の活動では報告書の作成が重荷にならないよう、柔軟に活動してよいとの補足があった。

### (4) CL148号「コンクリート構造物における品質を確保した生産性向上に関する提案」各地区での講習会開催状況

名倉幹事から、表記について報告があった。中部、東北支部で実施済みであり、今後、北海道、中国、四国、西部の順で開催する。

### (5) 「若手/中堅実務者のためのコンクリート技術講習会 ― 構造物設計の基本と施工・維持管理との連携 ―」の開催報告

コンクリート教育研究小委員会幹事長の田中委員から、5月19日に土木学会講堂で開催された表記の講習会について、報告があった。70名の定員に対して64名の参加者があった。また、受講者に対してアンケートを実施したため、その集計結果はいずれ紹介する。

## 6. その他

石炭灰混合材料の利用拡大に向けた設計施工指針小委員会(261)の研究対象について質問があった。対象はコンクリートではなく地盤材料への展開であるが、委託時にコンクリート委員会内での小委員会設置、および、成果のコンクリートライブラリーとしての発刊の希望があったことが説明された。

### 次回開催：

7月11日(火)14:00より、ホテル仙台ガーデンパレスに於いて開催。

(議題は、6月20日(火)までに幹事宛)

**話題提供：**

「コンクリート委員会の国際戦略について」

司会：濱田委員（国際関連小委員会委員長）

濱田委員から、小委員会の活動の概要が簡単に説明され、また、学术交流基金の助成にあたって、「コンクリート委員会としての成果を示すこと」、「示方書の海外戦略をたてること」という課題が与えられているため、対策を立案するために時間をとったことの説明があった。

話題提供者

津吉委員：インド高速鉄道でのプロジェクトの紹介

春日委員：国際市場におけるコンクリート橋の課題と戦略

長井氏（東京大学）：学会と研究の国際展開について

上記の課題に対する対応は、幹事団と国際関連小委員会にて継続審議する。

また、濱田委員から出席の各委員に対して、

- ・ 海外の研究者へのニュースレターの転送（その際、2007年版示方書がダウンロードできる旨もアナウンス）。
  - ・ 次年度以降のセミナーの開催要望をつのり、国際関連小委員会に知らせること。
- についての協力依頼があった。